慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	M&A後の戦略的統合の成功要因
Sub Title	
Author	辻花, 龍吾(Tsujihana, Ryugo) 浅川, 和宏(Asakawa, Kazuhiro)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2010
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2010年度経営学 第2555号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002010-2555

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学籍番号	氏名
80930733	辻花 龍吾

主査	副査 1	副査 2
浅川 和宏	磯辺 剛彦	坂下 玄哲

研究テーマ

M&A 後の戦略的統合の成功要因

内容の要旨

近年、海外市場でのシェア拡大、新興国への進出といった成長戦略の手段として、日本企業のクロスボーダー M&A が増加すると同時に、様々な業界において飽和状態の国内市場では、経営基盤の強化を目的とした M&A が数多く実施されている。しかしながら多くの企業が M&A を実施後、様々な問題から企業統合に苦戦をしている状況といえる。多額の金額を M&A のために費やしながら、経営計画上期待されていた効果が得られなければステークホルダーから厳しい目を向けられることは間違いなく、M&A 実施両社間の円滑な統合が必要不可欠である。

既存の M&A に関する論点は、その後の統合よりも財務パフォーマンスに焦点を当てるものが多い状況といえる。また、統合においてトップマネジメントのリーダーシップ、従業員のモチベーション、現場のコミュニケーションといった点が重要であるとの議論はあるものの、その影響度や統合の成功要因が十分に明らかにされているとはいえない。

そこで、本研究は、M&A 後の統合フェーズにおいて、様々な要因が統合の促進に与える影響を実証的に検証することを目的として行った。

上記課題を解明するために、本研究では M&A 実施企業 396 社に対するアンケート調査を行い、回収した調査結果をもとに記述統計、因子分析、重回帰分析等の統計分析を行った。

調査の結果、統合の成功のために従来重要であると考えられていた、「トップマネジメントのリーダーシップ」「両従業員の関係・信頼」「従業員のモチベーション」といった抽象的な要因よりも、「従業員の知識吸収能力の向上」「双方向の人事交流」「ビジョン・目標の共有」といった具体的施策が実行可能な要因が、統合の促進のために重要であるということが分かった。